

# 国語科指導案

日時 令和 2 年 6 月 1 2 日 (金)  
対象 3 年 2 組 36 人  
指導者 教諭 小笠原 淳

## 1 単元（教材）名「故郷」魯迅（三省堂）

### 2 単元設定の理由

#### (1) 本単元と本校国語科の目標とのつながり

知識及び技能	言葉によって物事を捉え、他者の思いや考えなどを理解したり、自分の思いや考えを伝えたりするための知識、技能を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等	言葉による見方、考え方を働かせ、その思いや考えに至る過程や理由、根拠まで含めて、理解したり伝えたりするための思考力や想像力を養う。
学びに向かう力、人間性等	「ことばの力」を大切にし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養う。

本単元では文学的文章を題材として、読むことの授業を行う。この単元において、「知識及び技能」では、作品全体を捉え、そこに描かれている心情などを理解するために、文章中の語句や表現に着目しながら読む中で、これまで培ってきた知識及び技能を生かすとともに、単元を通してさらにその力を高めることができると考える。「思考力、判断力、表現力等」では、自身の構造化を基に、登場人物の言動の意味や情景描写などをふまえながら、作品の魅力を伝える CM のための絵コンテを創作する過程を通して、作品を深く読むための、見方・考え方を働かせ、自分や他者の思いや考えを、理解したり伝えたりする思考力や想像力を養うことができると考える。「学びに向かう力、人間性」では、絵コンテを創作するために読み取ったことを基に、考えたことや感じたことを表現したり、作品そのものを受けとめ、表現したりするという、「ことばの力」を発揮する。このような過程を通して、「読むこと」の力を高めようとする態度を養うことができると考える。

#### (2) 教育的意義

現代社会では情報化が進み、パソコンやスマートフォンなどの情報機器の普及に伴い、コミュニケーションのあり方が多様化している。インターネットを介して、多くの人と一瞬でつながることができるため、自分の思いを発信する機会の増加や方法の多様化も進んでいる。この発信の増加や、方法の多様化により、様々な媒体で情報が瞬時に私たちのもとにも入り、我々はその利便性を生かし生活しているしかし一方で、受け手が正しい情報なのか判断する力や送り手がその情報が本当に正しい情報なのか確信をもって情報を扱う力も求められている。このような、発信する機会の増加や、方法の多様化に伴う情報伝達の高速化に対して、受け手が本当に理解し、伝えたい理由や根拠を踏まえて受けとめているかや伝える主体そのものが、伝えたい内容を精査し、本当に伝えきれているかどうかなど不確実な部分も残っている。このような、情報を正確に捉える力すなわち、情報を読み取る力については、平成 31 年度の全国学力学習状況調査でも述べられている。「文章に表れているものの見方や考え方について、自分の考えをもつことはできている」ものの、「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつことや、文章の展開に即して情報を整

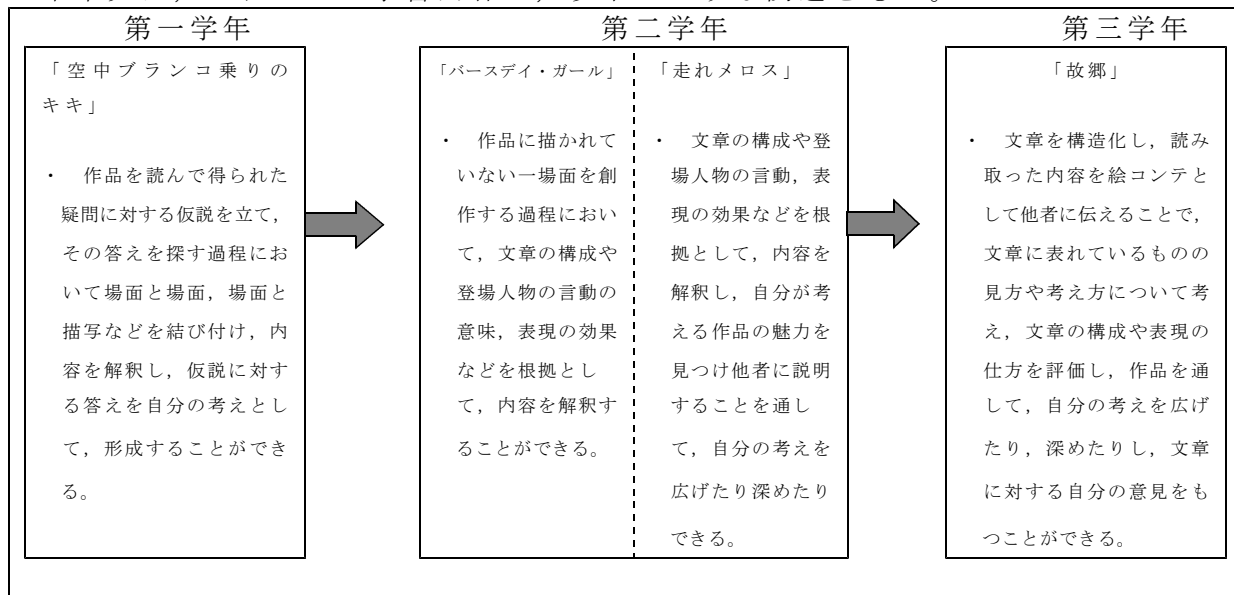
理し、内容を捉えることに課題がある」という報告はこの情報を読み取る力と結びつくものであると考える。そこで、自分が文章のどこから読み取ったのか、その根拠や理由を自ら自覚し、情報どうしを結び付け、根拠を明確にした自分の考えをもち、さらなる読む力を育成するために、本単元を設定した。

本単元では、文章から読み取ったことを根拠に、作品の魅力として自身が考えることを、創作物として発信する学習過程を設定し、創作する過程で「読むこと」の力の育成に取り組もうと考えた。そのために、教材として「故郷（魯迅）」を取り扱うこととした。本作品は、翻訳小説であり、現在と回想が作品の中で移り変わる作品構造となっている。回想の中での故郷と、現在の故郷の変化を捉えつつ、未来に向かうために、筆者が考える希望とはどのようなことか、読者に感じ取らせることができる作品である。そのため、翻訳小説としての魅力や、文章構造の魅力、作品の主題としての魅力など様々な角度から作品の魅力をつかむことができるものである。

学習の展開としてまずは、例として15秒の映画CMをみて、それを絵コンテに戻す作業を行わせる。その上で、「故郷」本文を、読み取ったことを基に構造図でまとめさせる。次に、4人ずつのグループに分かれ、そのグループ内でどのような対象にCMを伝えるか分担を決める。具体的には、「動画サイトでCMを見る人」、「テレビドラマの間のCMで見る人」、「アニメ番組の間のCMで見る人」、「映画館での告知CMで見る人」の4つを対象とし、それぞれにふさわしい絵コンテを個人で作っていく。その後、それぞれが作った絵コンテをグループで分析し、グループの作品として、4つの絵コンテを仕上げる。このように、対象を明確にし、できあがった絵コンテについて意見を交わらせることで、他者の読みや解釈、受け手である他者に面白さや魅力を伝える意識を持たせることができる。最後に、対象の代表者にできあがった絵コンテを発表させ、他者の絵コンテの説明を参考に、自分の読みをより深めさせる。このような学習過程を通して、自分の読みを深めていくと同時に、伝える相手への意識をもった創作物の表出が可能になると考える。また、創作物として、自身が作品をどのように捉えたか顕在化することで、自身の読み深まりを自覚させることができると考える。

### (3) 連関的意義

本単元は、これまでの学習内容と、以下のような関連をもつ。



### 3 単元の目標及び評価規準

#### 【単元の目標】

- (1) 文章の中に用いられている語句や表現に着目しながら，作品を読み深めることを通して，語感を磨き，語彙を豊かにしている。〔知識及び技能(1)エ〕
  - (2) 文章の場面と場面，場面と描写などを結び付けたり，登場人物の言動の意味などについて考えたりすることで，内容をより深く解釈することができる。〔思考力，判断力，表現力等 C「読むこと」イ，エ〕
  - (3) 読み取ったことを基に場面を創作したり，他者と交流したりすることを通して，文章に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができる。〔思考力，判断力，表現力等 C「読むこと」オ〕
  - (4) 文章を深く解釈しようとしたり，自分の考えを深めたり広げたりしようとしたりすることができる。〔学びに向かう力，人間性等〕
- (1)～(4)については，以下のような姿を目指すものとする。

評価の 観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	① 語句や表現に着目し，それらが文章にどのように生かされているかに理解を深めている。(1)エ	① 「読むこと」において，文章の場面と場面，場面と描写などを結び付けたり，登場人物の言動の意味などについて考えたりし，文章の理解を深めている。(イ) ② 「読むこと」において，本文の読み取りと，他者との交流を通して，文章に対する自分の考えを広げたり深めたりし，自分の創作に生かしている。(オ)	① 絵コンテを作るために，文章を構造化しようとしたり，他者と交流しようとしたりして読みを深めようとしている。 ② 読み取ったことを基に，絵コンテを創作し，他者の助言や捉え直した本文の内容を基に，修正しながら作り上げようとしている。

### 4 単元の指導計画

#### (1) 単元設定の視点

##### ア 生徒の実態から

本校の生徒は，学習に対する意識が高く，グループ学習やペア学習などでも積極的に活動する生徒たちである。そのため，合意形成を目指すための話し合い活動には慣れており，グループ内で，協議を進めながら課題の解決を図ることができる。しかし一方で，解決の答えが，一部の生徒の考えに左右されることも少なくなく，単元で身につけた力が個人にどのように還元されているか，評価しづらい部分もあった。

このような生徒の実態を踏まえ，本単元では，グループ活動から，個人に活動を戻し，個人の考えを表出させるようにした。具体的には，絵コンテ創作の過程で，自身の担当を明らかにした上で，担当外の生徒からの意見をもとに，自分の絵コンテを見直すというものである。この過程により，他者から意見をもらいつつも，自身の意志を表出することで，自分の読みを顕在化させることができると考える。また，意見をする生徒においても，自身の読みを基に，他の対象のために作られた絵コンテに意見をする必要があり，本文を明確な根拠として発言することが求められる。仕上がった絵コンテについても，他者のものと比較しながら，自分の読み取りがどうであったか考えさせる材料の一つとしており，根拠をもって自身の創作を価

値づける必要がある。

この言語活動により、絵コンテ創作のために、人物や文体などに着目して文章を受けとめるといふ、読むことの領域における力の育成にもつながるものと考えられる。加えて、本文を根拠として自分の考えを表現させる経験をするこゝで、思考の過程を大切にすゝるといふ態度を身につけさせ、今後の学習への意欲にも反映させていきたい。

## イ 本校の研究内容との関連から

### ① 年間計画のデザイン〔教科論 2「昨年度からの取組」(1)ア〕

本校国語科では、身につけた「ことばの力」を生徒自らが自覚することによつて、読むことだけではなく、書くことや話す・聞くことの学習においても生せるようになることを目指している。本単元においては、文章そのものと、他者が作った絵コンテを通した、他者の読みを「受けとめる」対象として捉える。文章そのものと、他者の読みを「受けとめる活動」を通して、他者が文章をどのように受けとめているかを知つたうえで、自分の読みを進める経験を積むことができる。このような単元設定により、生徒が自身の読みの変容を自覚するとともに、他者の読みとの比較を通して、読みの深まりを自覚でき、自身の読む力を意識して学んでいくことができるこゝで考える。この読みの可視化と、他者の読みとの比較を通して、作品の魅力に気づいたり、自分の考えを広げたりすることにかゝし「読むこと」の力の育成を図ることができるこゝで考える。このような学びの過程は、本校国語科で実践している、他領域を横断した「学びをつなげる授業」にもつながることができるこゝで、年間計画のデザインにおいて、身につけた力の自覚化を図るといふ点で単元間をつなぐことができるものになると考えられる。

### ② 単元計画のデザイン〔教科論 2「昨年度からの取組」(1)イ〕

本単元は本校で、「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の学習において主に取り入れていた、「創造型プロセス」の学習過程で展開される。今までの実践において、「創造型プロセス」を学習過程に取り入れるこゝで、生徒自身の読みの過程が可視化され、読みの変化が自覚化しやすいくことがわかつてきており、本単元でもこのプロセスで展開することとした。本単元では具体的には次のような過程をたどることとなる。まず、学級全体に示された CM 作成のための「絵コンテを創作する」といふ目標に向かつて、見てもらう 4 種類の発表対象別にグループを作り、対象ごとに担当を決め、担当について個人で創作を行う（仮実践）。個人で作った絵コンテをグループに持ち寄り、企画会議を行いお互いの絵コンテについて意見を交換する。（仮実践の分析）。グループでの分析後、根拠と理由をさらに明確にしながゝ絵コンテを仕上げていく（練り上げ）。その後、他のグループの絵コンテと比較しながら、自分たちの絵コンテを評価し、自分の読みの過程の変化を整理することによつて、仮実践からの変容を確認する（本実践）。このような単元デザインをすることによつて、生徒自身が自分の考えがどのように変容したかを見取ることができるこゝで、自身の読みの根拠や理由がより明確になり、作品をさらに深く読みとることにつながると考える。

### ③ 考えの変容や力の高まりを自覚させるための工夫〔教科論 2「昨年度からの取組」(2)イ〕

本単元では「伝える活動」のために「受けとめる活動」が行われるように、単元の過程を設定している。作品の魅力を相手に伝えるためには、自分が作品自体の魅力をどのように感じ、受けとめているのかを、理由や根拠も含めて明確にする必要がある。そこで、本単元における「受けとめる」対象である文章そのものをより深く読み取るために、構造化した自分の読みを「絵コンテ」といふ形で表出させ、それを交流させる活動、また、そこで得た意見をもとに、グループで仕

上げた絵コンテを他のグループと比較し、自分たちの絵コンテを分析する活動などを取り入れている。この単元の過程の中で、生徒自身が自分の読みの変化を自覚するとともに、他者の読みとの比較が明確になるように、ワークシートにも工夫をした。具体的には絵コンテのワークシートに、根拠や理由、他者の助言や自分の考えの変化を記録させる欄を設け、自分の読みがどのように変容したかわかりやすくするとともに、自身がどこから読み取ったかを記入する欄も設け、本文とのつながりも意識させることとした。また、他者の絵コンテから自分たちの絵コンテを分析するための記入欄も設けた。このような工夫を1枚のワークシートで行うことで、自分の読みがどのように変化したかを生徒自身が理解できるとともに、他者の読みを通して自分の読みを深めることができると考えた。

## (2) 単元の指導計画（全9時間）

過程	主な学習活動	時間	指導に当たっての手立て	評価する内容	評価方法
導 入	1 例示となる映画 15 秒 CM の映像を見せ、「故郷」の絵コンテを作成することを 知る。 (個人)	1	絵コンテの説明とともに、CM を絵コンテに戻す、作業をさせ、映像化の手順を理解させる。	[知識・技能] ①	【ワークシート・観察】
展 開	2 「故郷」の本文を読み、文章の展開と特徴、登場人物などを捉えるために、作品を構造化する。 (個人)	2	今まで学んできた構造化の仕方を生かし、文章の構造化を行わせる。	[知識・技能] ① [主体的に学習に取り組む態度] ①	【ノート】
	3 グループで担当を決め、自分の担当する対象のために「故郷」を5～7コマの絵コンテにする。 (グループ→個人)	1	CM を見てもらう対象を次の四つに分け、自分の担当する対象に見てもらうための絵コンテを作成する。 ・動画サイトで見る人 ・テレビドラマの間に見る人 ・アニメ番組の間で見る人 ・映画館での告知で見る人	[知識・技能] ① [思考・判断・表現] ① [主体的に学習に取り組む態度] ②	【ワークシート】
	4 グループに戻り、それぞれの絵コンテを説明し、意見を交わし合う。 (グループ)	2	自分の担当した絵コンテを、どのような意図で作ったか説明し、対象のためにはどのような加筆修正が必要か、話し合わせる。その際、人物の描き方・キャッチコピー・台詞については特に着目させる。	思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①・②	【ワークシート・観察】
5 他者の意見を受け、絵コンテの修正を行う。 (個人)	1	最終的には担当した人の責任で仕上げることを強調し、それぞれが、自分の担当にふさわしいと考える、絵コンテを仕上げる。	思考・判断・表現] ② [主体的に学習に取り組む態度] ①	【ワークシート】	
終 末	6 他者と絵コンテの交流を行い、他者の絵コンテの説明を聞いた上で、自分の読みの変容を整理する。	2 1/2 (本時)	他のグループと比較し、自分の作った絵コンテがどうだったか比較し、自分の読みの変容を確認する。	思考・判断・表現] ①・② [主体的に学習に取り組む態度] ②	【ワークシート・単元シート・発表】

## 5 本時の実際（8 / 9）

### (1) 指導目標

各班の代表の絵コンテをよりよくするために、意見を交流させる中で、創作するための根拠が、文章中にあることを確認し、文章の場面と場面、場面と描写などを結び付けて、登場人物の言動の意味などについて考え、文章に対する自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。具体的には次のような姿をめざす。

十分に達成されている	各班の代表の絵コンテをよりよくするために、意見を交流する中で、自分の読みの変化や深まった部分を、単元シートに記述することができる。
おおむね達成されている	各班の代表の絵コンテを見る中で、自分の読みの変化や気付いたことを、単元シートに記述することができる。
達成していない生徒への手立て	各班の代表の絵コンテの説明を板書を基に再度整理させ、どのような観点に着目すればよいか確認させる。

### (2) 目標行動（G）

単元シートから、例えば次のような姿を見取ることができる。

- ・ 他の対象で作成した発表を聞き、伝える対象が違っていても、文章の主題は同じであることに気がついた。例えば、作品の魅力を伝える上で、「私」と「ルントー」との関係性の変化はどこを対象にしても伝えたい部分であり、絵コンテに生かしていくべきだと考えた。

### (3) 下位目標行動

- ① 絵コンテを修正するために、どんなところに着目して作品を捉え直したか、単元シートのまとめを発表することができる。
- ② 各班の代表の絵コンテをよりよくするために、意見を交流させる中で、自分の絵コンテについても観点に分けて見ることができ、気づきや新しい捉え方を単元シートに記録することができる。
- ③ 代表生徒は全体に対して、自身の絵コンテについて説明する。その際、次のような点について特に詳しく説明することができる。また、説明を聞く生徒は、自身の絵コンテや構造図と比較しながら、説明を聞くことができる。

- ・ 構成
- ・ キャッチコピー
- ・ 見た人に訴える力
- ・ 捉えた場面
- ・ 台詞

- ④ 絵コンテの説明を受け、他グループの絵コンテが、本文のどのようなところに着目しているとともに、対象に対してどのように捉えているか気付き、ワークシートに記録することができる。
- ⑤ R 本時の流れを確認し、学習の見通しをもつことができる。
- ⑥ R 学習課題が、「四つの絵コンテをよりよくしよう。」であることを確認することができる。
- ⑦ R 学習目標が、「絵コンテの作成を通して、読みを深めよう。」であることを確認することができる。
- ⑧ R 前時までの学習を振り返ることができる。

(4) 本時の実際

時間	学 習 過 程	指 導 上 の 留 意 点	研究との関連
	<p style="text-align: center;">スタート</p>	<p>〈導入〉</p> <p>〈学習目標〉</p> <p>絵コンテの作成を通して、読みを深めよう。</p>	<p>単元計画のデザイン (2(1)イ)</p>
2'	<p>学習目標と学習課題、学習の流れを確認する。</p> <p style="text-align: right;">1</p> <p>(⑧ R, ⑦ R, ⑥ R, ⑤ R)</p>	<p>〈学習課題〉</p> <p>四つの絵コンテをよりよくしよう。</p>	<p>考えの変容や力の高まりを自覚させるための工夫 (2(2)イ)</p>
15'	<p>各班の代表者が絵コンテを説明する。</p> <p style="text-align: right;">2</p> <p>(④)</p>	<p>〈展開〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時で各班 (伝える対象による班分け) の代表となった4人に、自分の絵コンテと、それを描く過程を説明させる。その際、次の流れに沿ってそれぞれ発表させる。</li> </ul> <p>作成の根拠となる「故郷」本文をどう捉えたかの説明 (構造化を示し説明する。) →対象を意識して工夫したところを説明する。→清書した絵コンテの流れの説明。</p>	
20'	<p>四人の説明を聞き、観点に基づき、よりよくするためにはどうすればよいか、クラス全体で議論する。</p> <p style="text-align: right;">3</p> <p>(③)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時に確認した観点を基に、今の絵コンテをよくするためには、どの観点について、修正したらよいか、話し合わせる。</li> </ul> <p>(観点)</p> <p>①捉えた場面、②台詞、③構成、④キャッチコピー、⑤見た人に訴える力</p>	
8'	<p>発表を受け、本時で気付いたことを単元シートに記入する。</p> <p style="text-align: right;">4</p> <p>(②)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>絵コンテの作成全体で意識したところはどのようなところか、また観点について自分の絵コンテがどうか見直すとともに、自分の読みの過程がどうか記入する。</li> </ul>	<p>単元シートの活用 (2(1)ウ)</p>
5'	<p>単元シートに書き込んだ内容を発表させる。</p> <p style="text-align: right;">5</p> <p>(①)</p> <p style="text-align: center;">ゴール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自身の絵コンテを見直すとともに、自分の絵コンテについての気づきや本文の内容についての新しい捉え方や気づきを発表させる。</li> </ul> <p>〈終末〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>単元シートの発表を受け、作品の主題や魅力について、次回確認していくことを理解する。</li> </ul>	